

令和6年9月3日

こんにちは 連額系の稲垣です。台風、この地区は、大きな支障がなかった、少し肩すかし、そんな気もしています。もちろん被害がないことがとても素晴らしいのですが、結構それなりに準備して、目張りも何か所かしてきたのに、何もないと、またそれを戻してまた片付けて…と。被災した方の負担に比べれば、大したことないのに、自分の器の小ささに情けなく感じています。さて、地域の情報を頂きました。別添たくさんの方にご案内したくご連絡します。ご参加連絡よろしく申し上げます。

市介護サービス事業者協議会  
稲垣様

お世話になります。

標記の件について、添付のとおりご案内申し上げます。土曜日の夜の時間帯となってしまうましたが、是非ご参加いただきますよう会員の皆さまにご連絡いただきますようお願いいたします。

#### 【長谷先生からのコメント】

本年元旦に発生した能登半島地震(最大震度7・マグニチュード7.6)により、これまでの報道にあるように被災地では甚大な被害がでました。本災害の特徴は、地震後の断水が長期間(3か月以上)に及んだことです。水のない生活は被災者に様々な健康被害をもたらしております。平時の生活では無意識に使用している水ですが、断水となると、食事・風呂・トイレ・洗濯・口腔ケア・服薬など様々な状況において困難を強いられました。なかでも、トイレ問題から派生して飲水や食事摂取を控えた方が多く、余震のストレスに加え体調を崩した方も大勢います。さらに、断水生活では地域住民の口腔ケアの優先順位が下がり、口腔内にも様々な変化が出現しました。口腔乾燥や口内炎、舌痛症です。このような状況では十分な食事ができず、支援物資も加工所品が多いため免疫力も低下します。したがって、高齢者を中心に「誤嚥性肺炎」の発症が震災前の3倍ほどに膨らみました。

今回、予想できない大規模災害と水のない非日常生活が口腔に及ぼす影響を皆様と考え、被災後の食事提供の在り方や支援物資の配置も含めた口腔ケアの認識について多職種で学びたいと思います。口腔の健康問題は歯科だけで完結

するものではありません。口腔は栄養の入り口として、または災害関連死を防ぐための一手段としての口腔ケアの本質について今後、災害職種間連携の構築を進めるうえで参考になればと考えます。

各務原市歯科医師会

会 長 杉本光庸

担当理事 金光泰典

市在宅歯科医療・介護連携支援室「歯びねす」岡田智恵